発行責任者
鈴鹿市ものづくり
動く支援室
代表　大原　勝
鈴鹿市飯野寺家町
816番地
鈴鹿商工会議所３Ｆ
TEL059-384-0880
Fax059-384-0868
E－mail
shien@mecha.ne.jp
所轄機関～鈴鹿市
産業政策課

ご期待ください！「鈴鹿市ものづくり動く支援室」

鈴鹿商工会議所　総務部長　明石　孝利

戦後の経済復興の槌音が響く昭和二十五年。戦前の軍事施設跡地を利用し、全国に先駆して企業誘致を目的とした「工場設置奨励条例」を施工した鈴鹿市。これにより、次々と大手企業が進出し、今日では**工業出荷額が一兆六千百七十億円**（平成十六年工業統計）と青森、宮崎、長崎県等の各県のそれを上回り、全国の都市では第十九位、人口二十万人以下の都市では、トヨタの愛知県田原市に次ぐ、**全国第二位**を誇っています。このように鈴鹿市は、工業、特に製造業を中心として今日まで発展してきており、第二次産業就業者の占める割合も、全国の２９．５％に比し、鈴鹿市では４１．２％と大幅に上回っております。

今、この鈴鹿市の発展の原動力となり、これまで支え続け、担い続けてきた方々の多くが、リタイヤされる時が来ました。しかし、これらの方々が、長年に亘り培われてきた技術、ノウハウをただ単に退職と言う二文字で埋もれさせて良いのか。そしてこれからの鈴鹿市が持続的発展・成長をするためにも、是非活かさせて頂くべきなのではないか。そんな思いを強く持ち、鈴鹿市と商工会議所とが連携し、本年四月に立ち上げたのが「鈴鹿市ものづくり動く支援室」です。

３Ｆに支援室が入る商工会議所

その活動は、生産管理、品質管理から経営戦略、人事などに亘る管理面から、ロス取りやプレス金型、溶接、板金等々の技術面に亘る相談、支援を「現場、現実、現物」の三現主義で、ナント、「コスト・ゼロ」でお手伝いする、全国的にも画期的な取り組みです。その実績も四月からスタートし、半年間で３０社を超える支援を行い、早くもコストダウンの効果が現れた企業もあり、支援を受けた企業から、大変評価されております。**～お困り事の「小さなものから大きなものまで」**～こんな「鈴鹿市ものづくり動く支援室」を利用しない手はありません。是非ご利用ください。素晴らしいアドバイザーが、必ずや皆様のご期待にお応えするでしょう！《チャレンジして失敗することを恐れるよりも、何もしないことを恐れよ》～鈴鹿市の名誉市民であり、今年生誕１００年を迎えられた『本田宗一郎』氏の言葉ですが、皆様のチャレンジをお手伝いさせて頂きます。どうか「鈴鹿市ものづくり動く支援室」とご一緒にチャレンジしてみませんか。『ご連絡・ご相談』をお待ちいたしております。

サァー“**得手に帆をあげて**”いきましょう！

地域密着型の「支援室」に期待する

三重銀行　執行役員　鈴鹿法人営業部長　伏野　勝彦

わが国の経済は確実なる回復傾向を持続し、戦後最長のいざなぎ景気（回復時間五十七ヶ月）を上回る勢いであります。しかし、「実感なき景気回復」とも言われています。理由は、大企業製造業中心の回復とのイメージが強く、所得や消費の伸び悩みや、種々の格差問題が内在するなど、手ごたえが薄いのも事実であります。

いざなぎ、バブル景気等と単純比較は無理がある。回復期間は最長でも、内容には随分違いがあり、実感との乖離もこの辺にあるように思います。

思い起こせば日本経済はバブル崩壊後、「失われた１０年」の言葉に象徴されますように、長い景気低迷と深刻なデフレに直面し、金融危機が表面化するなど厳しい経済環境の連続でありました。いずれにしましても、今は、まだ「景気回復」であって、「景気上昇」との表現が活字になるには、しばらく時間を要するかもしれません。

ともあれ、日本経済も漸く長期停滞を脱し経済活動も拡大する中、三重県においても行政の戦略的な企業立地推進もあって、成長力強化に向けた動きが活発化しております。

こうした中にあって、支援室の存在意義は益々大きくなって行くものと思います。鈴鹿市産業活性化戦略の重要施策の一つとして鈴鹿市の強みである企業や人材の集積を活かし、「中小製造企業の困りごとを支援します」そして、「経験豊かな企業ＯＢがあなたの会社の現場の力を引き出します」

他市・他県とは一味違う「鈴鹿市ものづくり動く支援室」として、本年四月に発足して、早半年が過ぎました。地域の成長力強化は、中小企業の成長が必要不可欠であります。支援室の活動は極めて地域事情、ニーズに合致したものなのであります。今後とも県下、鈴鹿市経済の持続的な成長を確実なものに仕上げるためにも産学官の連携により、支援室の更なる活躍と、成果・実績に裏付けされた発展を心から期待しております。

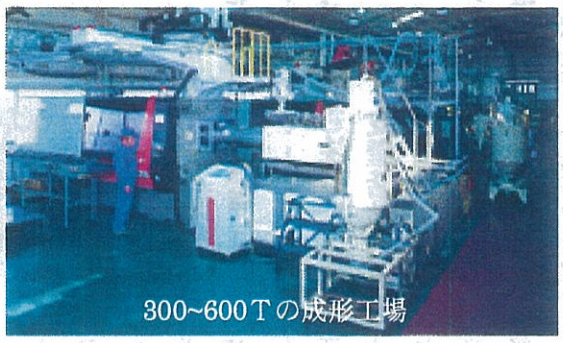
支援を受けて　企業紹介

作業の標準化で職場改善

宝永プラスチック㈱　代表取締役社長　村田　信行

弊社は、プラスチック成形を中心とする創立３０年の会社です。ＩＳＯは、９００１と１４００１を取得し、ものづくり改善に向けて努力をしてきました。社内では５Ｓを推進し、業務を見えるようにする「見える化」を推進中の折、「鈴鹿市ものづくり動く支援室」が発足したことを知り、改善をさらに進めるためにプラスになると思い支援を申し込みました。

最近の原油価格高騰の中で直面している最大の問題は、プラスチック原料費の値上がりであり、段取り替え時に発生する材料排出量は膨大な金額に成ります。今回専門アドバイザーに来て頂き、材料の排出量削減に向けて、特に見え難かった「**段取り替え時間や、段取り時の材料排出量の洗い出し**」をテーマアップし、支援して頂くことになりました。成形と言うのは、職人の世界というところがあり、個人の技量に頼ってここまで来ていました。


300~600Ｔの成形工場

成形機の台数は３９台と割合多く、それと同様に日々の段取り替え数（金型の交換数）も多いほうだと思います。段取り者はそれぞれ、自分で身に付けたノウハウで作業を行っています。

まず、この「段取り替え」の定義が社内で統一されていなかったので、実際に現場でアドバイザーの支援を得て、これを共有化することからスタートしました。

この定義が曖昧では、将来、段取り替え時間の短縮を進めようとしても、効果が上がりません。これを皆で明確にする為に、段取り者及び関係従業員に社長の私から今回の取り組みを説明して理解を求めました。

ＳＡより助言を得る工場スタッフ

① 段取り替え時間や前の製品材料から新しい製品材料への切り替えについての社内でのデーター取り

② 段取り者の材料切り替え方法のノウハウ提出について　社内だけでは推進し難いことが　支援室のアドバイザーの力を借りながら、短期間で整理することが出来ました。そして、これを土台にして、段取り時間の明確化及び材料替えの適正化を図り標準化出来ました。

最後にアドバイザーから、弊社の成形作業について「宝プラは後輩が先輩の作業を見て（盗んで）学ぶ職人の世界から脱皮していない」と言う人材育成の弱さを指摘されました。「職人の世界から更に進んだ人の育て方や、活かし方を推し進めるべきである。」と言う将来に対するテーマを頂きました。

今回の成果は

① **金型交換時間短縮～目標達成８０％**

② **作業標準の精度アップ**

ありのままの現状の姿を見えるようにしそれを基準化した事を、会社の財産としてこれからの人づくりや、物づくりに繋げたいと思います。

標準化から改善と言うサイクルを、皆と協力して進めて行きたいと思います。今後は、総力を挙げて、『材料の排出量削減』と言う目標を達成し、成形のモデル工場として、誇れるように頑張って行きますので、今後とも、ご支援・ご指導を宜しくお願いします。

コラム　三現主義

短期間で解決したい為、企業のトップと困りごとを持っている当事者、それに支援するアドバイザーの皆が集中し、素早く活動できるよう工夫しています。

そして、生産技術力が貢献した工業社会から今世紀はイノベーションや戦略を重視する知識社会へ変革して行く大きな流れの中で、産学官の連携を密にして豊富な知識経験を持つ元気な企業ＯＢの皆さんが様々な形で遣り甲斐を持って参加できる場となり、中小企業の活力を向上させる良い仕組の一つとして発展することを期待しています。（北本）

県内の支援活動で、専門家派遣や地域産業アドバイザー派遣などがあり、私も中小企業を訪問させて頂いていますが「鈴鹿市ものづくり動く支援室」は三現主義で質、量ともに内容の濃いものになっているように感じます。

今年は「いざなぎ景気」を超えたと言われる様に、仕事・資金より　人・物・情報に関する困りごとが多く見られます。そして仕事量や納期に追われる中で、

必要とされる「鈴鹿市ものづくり動く支援室」に

事務局　三枝　末男

はじめに

この支援活動を通して、多くの企業経営者を初め関係者にご協力いただいたこと、心からお礼申し上げます。『上期の活動報告』

【総括】目標をクリヤーしたものの、一社毎に課題と戦いながら試行錯誤で取り組んできた。【第一四半期】キックオフの勢いをそのままに、当初計画を上回るスムーズなスタートを切った。支援活動から仕事の標準化が急がれ、複数のツール化を計った。【第二四半期】予想外の支援領域の要請を受け、支援メンバーの確保に走り回った。一方6月以降支援申請企業数が伸び悩み、認知度を高める為に直接企業訪問し、御用聞きを行ったり、ポスターなど広報活動にエネルギーを費やした。

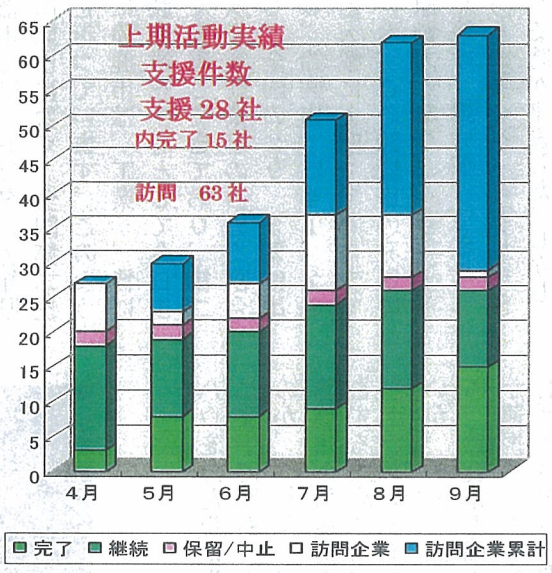
支援活動進捗状況でみると、第一四半期で２２社の申請に対して第二四半期では６社と激減し大苦戦しました。

◆２８社のテーマ分類で見ると、拡販、品質、ロス取り、特許、と全体の５０％を占める。

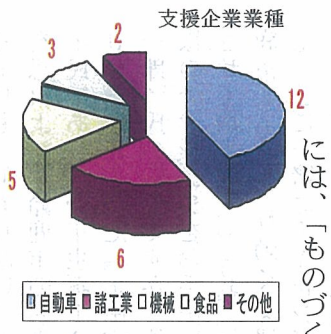
◆業種分類で見ると、自動車関連が４３％で次に諸工業、機械金属と言う順となっている。

◆アドバイザーの出番率で見ると、６３％と低い状況である。（四十一名中二十六名の出番であった）

「支援完了企業のお客様満足度」で見ると、２８社中８社の完了データーでは、８項目評価、５段階で全体平均３・６ポイントで、ＳＡ活動好評につき『次年度も支援を受けたい』と言う、意向が高かった。



【支援室が抱える課題と進め方】上期の中で第二四半期より支援申込が激減し、今年度七〇社の支援目標が、大変厳しくなっているのが実情です。　尚企業へ直接訪問しても申請に結び付かなかった事例などを分析しながら、企業トップを中心とし、その活躍で鈴鹿市が支えられているという事を痛感しました。訪問時に企業経営者のお話を聞かせていただき、多くのことを学びました。その中で印象に残っている事は、戦後の創業期からバブルが弾け　現在に至るまで、筆舌には表せないご苦労があったことが察しられました。オートバイ好きの小生の話で恐縮ですが、特に昭和三十年代のオートバイ業界は３００社近くの会社が国内で乱立し、と同時に輸入の自由化という逆風もあり、日本のオートバイ業界は生き残れないといわれていました。しかしその後世界で最も競争力のある４社に修練されたという記憶が今でも思い出されます。それを裏返して見ると、世の中が、ずっと必要とする会社という事が出来ると思います。ところで現在の「ものづくり」の環境は、スポーツに例えれば、オリンピック大会同様、世界の中での競争です。しかし企業の皆様はそれぞれ秘策を持ちながら、現在展開されていると思います。さて、支援室のメンバーの中には、「ものづくり」で国内はもとより、海外で経験した多くのアドバイザーが登録されています。又、特許に於いては４７都道府県の中で、ベスト３に入る実力者や、企業経営者として広く活躍された人が多く見えています。企業の皆様は日常ご多忙のことと思いますが、鈴鹿市のものづくり支援制度を、このチャンスに活用していただく事を願っています。最後に**鈴鹿市の企業より、必要とされる「支援室」**と成る為に　日々の努力を積み重ねて行きたいと思っています。



はじめに

この支援活動を通して、多くの企業経営者を初め関係者にご協力いただいたこと、心からお礼申し上げます。『上期の活動報告』

【総括】目標をクリヤーしたものの、一社毎に課題と戦いながら試行錯誤で取り組んできた。【第一四半期】キックオフの勢いをそのままに、当初計画を上回るスムーズなスタートを切った。支援活動から仕事の標準化が急がれ、複数のツール化を計った。【第二四半期】予想外の支援領域の要請を受け、支援メンバーの確保に走り回った。一方6月以降支援申請企業数が伸び悩み、認知度を高める為に直接企業訪問し、御用聞きを行ったり、ポスターなど広報活動にエネルギーを費やした。

支援活動進捗状況でみると、第一四半期で２２社の申請に対して第二四半期では６社と激減し大苦戦しました。

◆２８社のテーマ分類で見ると、拡販、品質、ロス取り、特許、と全体の５０％を占める。

◆業種分類で見ると、自動車関連が４３％で次に諸工業、機械金属と言う順となっている。

◆アドバイザーの出番率で見ると、６３％と低い状況である。（四十一名中二十六名の出番であった）

「支援完了企業のお客様満足度」で見ると、２８社中８社の完了データーでは、８項目評価、５段階で全体平均３・６ポイントで、ＳＡ活動好評につき『次年度も支援を受けたい』と言う、意向が高かった。

【支援室が抱える課題と進め方】上期の中で第二四半期より支援申込が激減し、今年度七〇社の支援目標が、大変厳しくなっているのが実情です。　尚企業へ直接訪問しても申請に結び付かなかった事例などを分析しながら、企業トップを中心とし、その活躍で鈴鹿市が支えられているという事を痛感しました。訪問時に企業経営者のお話を聞かせていただき、多くのことを学びました。その中で印象に残っている事は、戦後の創業期からバブルが弾け　現在に至るまで、筆舌には表せないご苦労があったことが察しられました。オートバイ好きの小生の話で恐縮ですが、特に昭和三十年代のオートバイ業界は３００社近くの会社が国内で乱立し、と同時に輸入の自由化という逆風もあり、日本のオートバイ業界は生き残れないといわれていました。しかしその後世界で最も競争力のある４社に修練されたという記憶が今でも思い出されます。それを裏返して見ると、世の中が、ずっと必要とする会社という事が出来ると思います。ところで現在の「ものづくり」の環境は、スポーツに例えれば、オリンピック大会同様、世界の中での競争です。しかし企業の皆様はそれぞれ秘策を持ちながら、現在展開されていると思います。さて、支援室のメンバーの中には、「ものづくり」で国内はもとより、海外で経験した多くのアドバイザーが登録されています。又、特許に於いては４７都道府県の中で、ベスト３に入る実力者や、企業経営者として広く活躍された人が多く見えています。企業の皆様は日常ご多忙のことと思いますが、鈴鹿市のものづくり支援制度を、このチャンスに活用していただく事を願っています。最後に**鈴鹿市の企業より、必要とされる「支援室」**と成る為に　日々の努力を積み重ねて行きたいと思っています。

シンボルマーク決定

シンボルマークを公募しておりましたが、応募総数２５６点の中から、飯野高校デザイン科3年の「松本みほ」さんの作品が見事選ばれました。デザインの意味するところは「ものづくりにおいて大切な『技と心』を『ハートと手』をモチーフした」ものです。このシンボルマークを通して広報活動を展開することで、支援室のイメージアップと、認知度向上を更に高めることが出来ると確信しています。元気な鈴鹿市を実現する為に、これからも皆さんのご協力をお願いします。（伊藤）

メディアも注目　支援活動広報活動紹介

支援室の広報活動については、ポスターやパンフレットを始め、様々な媒体を通して周知を行っています。メディアからの取材にも積極的に対応しており、これまでの間に、新聞、テレビ、ラジオといった媒体を通じて「鈴鹿市ものづくり動く支援室」が紹介されました。八月七日には中日新聞の「みえの産業と経済」と言うコーナーで、四半期の活動状況が取り上げられ、順調に展開されている旨の紹介がなされました。

また、九月十三日には、ＮＨＫ津放送局の「三重県内の経済動向を探る経済情報のコーナー」で、百五経済研究所の中畑主任研究員から、支援室の取り組みが紹介され、活発な取り組みについて高い評価を戴くとともに、今後の支援室の活動に対して大きな期待が寄せられました。十月二日には、ＦＭ三重の「モーニングクラブ」という番組の中で大原代表が支援室の概要や取り組みについての放送が在りました。このような媒体を通じての広報活動は、反響も大きいことから、これからも支援室の活動をＰＲできる機会がありましたら、積極的に取り組んで行きます。（山田）、

adviser紹介

西澤　浩（にしざわ　ひろし）

専門性～電気　機器製造技術

本年２月より始まった試行４社の支援にアドバイザーとして活動させていただきました。

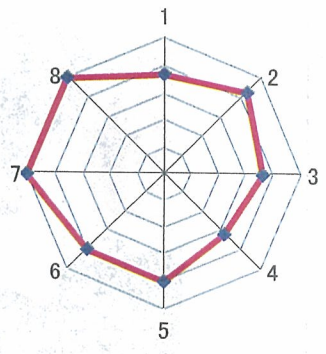
退職して自由度の高い自分が、毎日が戦争の企業の担当者の悩みも聞きながらの、手探りの支援活動でしたが、お互いの信頼関係も築かれ、それなりに当初の目的が果たせそうです。本活動で脳にも適度な刺激を貰い、趣味で続けている手打ち蕎麦（湯ノ山そば道場）での身体への鍛錬で心身ともに充実した企業ＯＢとして、支援活動で地域の企業のお役に立ちたいと思っています。今後沢山のＳＡが誕生し「鈴鹿市ものづくり動く支援室」が「鈴鹿モデル」として全国認定されることを目標に頑張ろう！

お客様の満足度を振り返る

発足して半年が経ちましたが、果たして本当にお客さんが満足して頂けたか　上期完了の十五企業の皆様にアンケートと聞き取り調査にご協力をお願いしました。依頼のテーマはＱＣＤＭの各領域企業独自のテーマが多く　其の支援も多業種にわたり同じものさしでの評価では難しいのですが

1、支援のスピード
2、支援の方法、内容理解
3、支援を受けて新しい知識を得ることが出来たか
4、支援後職場の雰囲気が変化したか
5、コミニケーション良く支援を受けられたか
6、期待した効果が得られた
7、来年度も支援依頼をする
8、他の企業にもこの支援活動を紹介したいか

の８項目について忌憚ない声をお聞きしたところ綜合するとグラフの様な結果となりました。支援室の反省としては　お客様の困りごとの共有化をスピード有る対応で把握してお客様に理解して頂ける言葉で効果確認までをしっかり支援していきたいと考えます。大切なのはそこで得た手法等を水平展開できることと思います。これからもお客様目線で進めてまいりたいと考えております。（石田）



編集後記

汗を拭いながら企業訪問をしていたのが、いつの間にか寒い朝を迎える季節となりました。支援活動もあっという間に過ぎて行きます。紙面にも有るようにこの四月にキックオフに参加して頂いた企業の皆さんとは繋がりが出来たのですが、支援が一息ついたらその後の依頼が減少し、ＧＡ自らが営業活動に回っている現状です。この画期的な鈴鹿市の産業振興事業も企業の皆さんに認知して頂く事の難しさを痛感しています。企業と太いパイプのある商工会議所や銀行の助言を戴きながら一社でも多く活用して頂く様頑張ってまいります。（門平）